



「わたし、フランがいたから話せたんだよ」

実話を基にした傷ついた子どもに寄り添う付添犬たちの物語

『いっしょにいるよ』

—子どもと裁判に出た犬 フランとハツシュの物語—



これは、つらい思いをしてきた子どもたちを支える「付添犬」の物語。弁護士のわたし、飛田桂と、獣医師の吉田尚子先生、それに児童精神科医の丸山洋子先生。そんな、仕事も性格も年齢もちがうわたしたちが、新井先生の「子どもの助けになる犬が必要なんだ」という思いに共感し、「付添犬」という新しいお守りをつくるまでの、ほんの少しだけ長いお話。(本文より)

「付添犬」とは、虐待や性被害によって傷ついた子どもたちのストレスや不安を軽減するため、児童相談所などの面会やセラピー、子どもに関する裁判などに付き添う犬のことです。

2020年8月、性虐待被害を受けた幼い子どもが、裁判で証言をする際の精神的負担を和らげるために「付添犬」を伴って出廷するという画期的な取り組みがなされました。その出来事は、盲導犬をのぞき、犬が法廷に立った日本初のケースとして、ニュースでも取り上げられました。

この本は、傷ついた子どもたちと関わってきた弁護士・医師・獣医師などの大人たちが、なんとかして彼らを助けたいと、手を取り合い、悪戦苦闘しながら、「付添犬」制度を立ち上げる実話をもとにした感動ストーリーです。



【著者プロフィール】 涌井 学（わくいまなぶ）1976年神奈川県生まれ。映像作品やコミックのノベライズを数多く手がける。著書に、『岳一ガク』『ALWAYS三丁目の夕日'64』『映画 謎解きはディナーのあとで』『世界からボクが消えたなら』『ブラック校則』『章切 映画ドラえもん のび太の新恐竜』『オッドタクシー』『前科者』『マジックに出会って ぼくは生まれた —野生のマジシャン HARA物語—』（すべて小学館）など。

いっしょにいるよ

—子どもと裁判に出た犬 フランとハツシュの物語—

著者：涌井 学 原案：NPO法人子ども支援センターつなぐ（吉田尚子・飛田 桂）

2022年7月21日発売 / 1,300円（税別） / 四六版 / 224ページ

< 問い合わせ先 > 片山土布（小学館 出版局 学芸編集部）

TEL：03-3230-5446 FAX：03-3234-7420

katayama@mail.shogakukan.co.jp

